

令和3年度 第3回 学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立 四條畷高等学校
校長名	稲葉 剛

開催日時	令和4年 2月 21日 (月) 15:30 ~ 17:06
開催場所	大阪府立 四條畷高等学校 東館2階 大会議室
出席者(委員)	田中 保和会長、梅田 和子副会長、阪口 葉子委員、串田 ゆか委員 松浦 慎吾委員、鉄 寿広委員
出席者(学校)	稲葉校長、竹島事務長、中角首席、浦井首席、藤板教諭、秦教諭、西教諭 竹中教諭、網代教諭、宮崎教諭、中尾教諭、谷野教諭、内田教諭、植田教諭 中村教諭、峯岸(文責)
傍聴者	なし
協議資料	・令和3年度 学校経営計画及び学校評価 ・令和4年度 学校経営計画及び学校評価 ・令和3年度第2回学校運営協議会説明スライド
備考	なし

議題等(次第順)	
1 学校長挨拶	
2 協議・報告	
(1) 保護者からの意見書	
(2) 「今年度の本校の教育活動」について	
(3) 「令和3年度 学校経営計画及び学校評価(案)」について	
(4) 「令和4年度 学校経営計画及び学校評価(案)」について	
3 その他 諸連絡	
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
<p><「令和3年度 学校経営計画及び学校評価(案)」に関する協議></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長が見学していて、どのように授業が変化していると感じるか。【委員】 →教材研究しっかりなされている。ほとんどの教員がPPTを使った授業で分かりやすい。受験対策と学問としての楽しさの両立が課題。【校長】 ・「学校力・教員力の向上」について、一斉退庁日の残留者が多い。教員は「休養・休息」の意義を理解しているか。【委員】 →授業・クラブ・質問・授業研究するなど自転車操業のような勤務をしていて余裕がない。教員にはうまく時間のやりくりをして、マストとそれ以外を取捨選択してもらいたい。定員増えず業務量も減らないなか、勤務時間だけ減らすのは難しい。【校長】 ・行事を通じて子供たちは成長している。四條畷高校も工夫をしながら実施していて評価できる。【委員】 ・「予習・復習」について、宿題・家庭学習を啓発しているが、四條畷高校はどのように対策をしているか？【委員】 →抽象的な指示・やり方ではできない子供が増え、具体的な指示を出していかないと成績を引き上げられないという経験的印象。やる気をどう引き出すかが今後課題。【首席】 →「英語」は授業だけでは完結せず自宅学習が重要な教科。生徒のやる気をどのように引き出すかが課題。【教諭】 →全教科が課題を出すバンクしてこなせない。他教科と連携して常々話し合い・調整。そのうえで、早めに学習計画を提示(ICTも活用しながら)。【教諭】 ・一人一台端末の活用方法は？【委員】 →本校ではGIGAスクールサポーターによる研修2回、教員が講師となる研修も2回実施。【校長】 →本年度は授業力向上委員会オンラインチームが主導。教員間のICTスキルのギャップは依然あり。来年度は組織体制を強化し、研修も月1回程度にしたい。欠席等連絡フォームをgoogle form化して教員が否応なくChromebookに触れ理解を微促進。職員会議資料をPDF配布にしてPCアレルギーを除去することに今後取り組みたい。【首席】 ・共通テストの難化＝学力観の変化。共通テスト対策として、10年後20年後の社会の展望についての受け止めは？【委員】 →1年次より取り組むことが重要。特に自己推薦書などに結実する「長めの文章」を書く力の育成に取り組みたい。本年度は共テ翌日に1問1問自己採点生徒のデータを収集。分析結果は3月末めどに集約。【教諭】 ・勉強はしていたのに共テできなかった、のはなぜか？学校に分析を求む。【委員】 ・授業評価3.51はかなりの高評価。「学校自己診断」で生徒と保護者の評価に逆転が散見される。その理由は？【委員】 →生徒の疲弊している様子を保護者は見ているのではないか。【校長】 →「先生の指導に納得」の項目に関して、生徒指導会議の年開催回数は1回程度。問題行動も少ない。生徒も指導に素直に従っている様子。生徒・保護者のギャップは実感はない。【教諭】 →「探究活動満足度」の項目に関して、生徒の評価が本音と理解している。保護者は発表会等に参加できておらず、様子が見られていないためではないか。生徒は課題探究の多忙さから8割程度の満足度になっているのでは。【教諭】 ・R3年度の「なわて」の活用状況・現状は？【委員】 →「進路HR」「進路講演会」「担任会」などで活用・共有している。顕在的に活用するというよりも、潜在的に(意識のうえで)活用されることを期待して作成。次年度以降も活用できる内容となっている。【教諭】 ・業務のスクラップ&ビルドについて、管理職が率先して進めてほしい。【委員】 <p><「令和4年度 学校経営計画及び学校評価(案)」に関する協議></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「探究活動」の教職員の評価高いのはよい。「探究活動」は本当の「学力」を育てる活動である。【委員】 ・「国際交流」に関して、新型コロナウイルスが停滞したとしてもオンラインになるのか？【委員】 →修学旅行は76期は北海道、77期は台湾または国内で検討中。海外研修は来年も不可能かもしれない。オンラインやペンパルプロジェクト、手紙による国際交流は継続中。【校長】 →台湾は防疫対策が世界的に成功。松山高級中学との交流実績を考慮して台湾は第1候補。【宮崎教諭】 	

次回の会議日程	
日時	
会場	